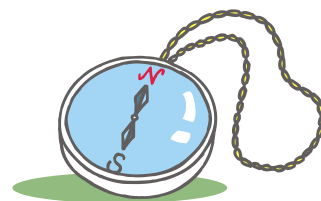


羅 針 盤

第 **35** 号 令和5年（2023年）2月20日（月）



◆ 1人の100歩より、100人の1歩

「1人の100歩より、100人の1歩」は、日本電産創業者である実業家の永守重信（ながもりしげのぶ）の名言として有名で、1人が100歩進むより、100人が1歩進むほうが、より大きな力となることを意味していて、チームワークの大切さを説くときによく使われる言葉です。一人の人間の力に任せて事を進めるのではなく、たとえ一人ひとりの持てる力はそれほど大きくなくても、全員で一致団結して物事にあたることに大きな意義があることを教えてくれています。平成30年（2018年）の7月に、愛媛県の南西部に位置する西予市（せいよし）で、豪雨によって、かつてないほどの河川の氾濫や土砂災害にみまわれて尊い命が多数奪われてしまうという自然災害が起こりました。その惨劇から町を復興させるために、西予市では復興まちづくりが積極的に進められてきました。その復興に向けた基本理念の3項目の一つとして、「1人の100歩より、100人の1歩」が位置づけられ、取り組みが進められてきています。町の復興を実現させるための基本的な考え方として、「1人の100歩より、100人の1歩」が用いられたのには、「復興」とは、専門家が中心となって計画することで進めるのではなく、あるいは、行政が政策的に進めるものでもなく、また、市民だけの努力によって目ざすものでもない、復興そのものが「まちづくり」と一緒に、一人の強力なリーダーだけが、また、一つのグループだけが進めても決して上手くいくことはないという考え方に基づいています。市民、行政、専門家、ボランティア、学生等々、多様な主体が複合的に連携して進めることに意義があると考えられたからです。「復興に関わることに価値がある」という思いを大切に、「みんなが手を取り合って歩いていく」ことに未来の街を思い描いたからに他ならないからだと思います。生徒の皆さんにも是非とも学校生活の多様な場面で、「1人の100歩より、100人の1歩」といった考え方を持ちながら、より良い学級づくり、学年づくり、そして、学校づくりへと持てる力を十二分に発揮してもらいたいと思います。

◆ 2023年に行くべき52カ所

先月のテレビニュースなどの報道で、アメリカのニューヨーク・タイムスの記事「2023年に行くべき52カ所」に、岩手県にある盛岡市が選ばれて一躍脚光を浴びることとなりました。中心市街地に歴史的な建物と川や公園などの自然があり、まちを歩いて楽しめるところや、コーヒー店、わんこそばのほか、書店、ジャズ喫茶などの文化が根付くまちであることが高く評価されて、選出に至ったそうです。今回の記事は、盛岡市取材で訪れた作家のクレイグ・モドさんが書いたもので、盛岡市を「歩いて回れる宝石的スポット」と高評価されています。東京から新幹線を使って数時間で行ける便利さや、大正時代に建てられた和洋折衷の建築美の建造物、盛岡城跡公園、「東屋」「BOOKNERD」「開運橋のジョニー」などが紹介されています。機会があれば是非一度訪ねてみたいものです。

